

第4節 ラオス人民民主共和国 (The Lao People's Democratic Republic)

山口しのぶ

1. ラオス人民民主共和国の高等教育の概要

(1) 背景

人口6,800,000人(2009年)の陸に囲まれた236,800km²のラオス人民民主共和国は近年大幅な高等教育制度改革を実施している。1995年から2001年にかけての国公立大学を含めた高等教育改革の一環として1995年の総理大臣法令によりラオス国立大学(NUOL)が設立され、続いて2001年に大学カリキュラム改革が実施された。ラオス国立大学は異なる省庁の管理下にあった10校を統合し教育省管轄の最大の国立大学となった。同時に地方における大学へのアクセスの拡大を目指し、2002年には南部のパクサ県にチャンパサック大学(CU)を、2003年には北部のルアンパバーン県にスパノヴォング大学(SU)を設立した。更に2007年には国家教育制度改革戦略(2006-2015)が大臣法令として策定され、本改革戦略では、ラオスの高等教育制度をアジア地域および国際水準化することを目標としている。

ラオス国内には、現在4校の国立大学(ラオス国立大学、チャンパサック大学、スパノヴォング大学、サヴァンナケット大学)、5校の教員養成大学、及び78の私立高等教育機関が存在し、大学入学者は大学修学年齢人口の5.3%にあたる。2007年には3国立大学入学者は35,403人にのぼっているが、地域格差、男女格差、民族間格差が存在し¹、格差問題は今後の高等教育改革の重要課題となっている。現在の高等教育の質は未だ改善の余地があり、中等教育の質の低下、研究教育設備の老朽化、教員の資格問題等に起因していると思われる²。ラオス国立大学の教員の45%は大学院修了の資格を保有するが、他の二大学に関しては新卒の教員、研究者が大多数を占める。

(2) ラオスにおける高等教育改革戦略³

2005年に第八回ラオス人民革命党大会決議により、総理大臣法令全国教育制度改革(NESR)が承認され、六つの指針1)人材資源の開発、2)国内の教育構造の重点化、3)社会参画の促進、4)知的生活の拡大と国の伝統・文化の保存及び国民の連帯感の強化、5)教育機会の拡大及び国民人々の能力と生活の向上、6)教育者の役割の更なる充実、が打ち出された。

全国教育制度改革戦略2006-2015は、社会経済の発展を維持するために必要な基盤を構築し、近代化を促進するために教育の質を向上させる事を目的とする。特に、大学を含む高等教育分野においては以下の七つの目標を掲げている。

1. 教員や学校経営者の研修を充実させ、教員の能力向上を目指す。
2. 国家の社会経済が必要とする技術者を輩出する。

3. 現在五つある教員養成学校（Teacher Training Schools :TTSs）を教育専門大学（Teacher Training Colleges : TTCs）と改め、ラオス国立大学との協働のもと教育学士（BEd）の授与を目指す。
4. 三大国立大学の教育・研究の質を高め、アジア地域及び、国際的水準を目指す。
5. 高等教育における女子学生・少数民族の学生の割合を増やし、高等教育修学人口の拡大を目指す。（注：対全人口比率を2005年の「1,068人：100,000人」から2010年までに「1,140人：100,000人」に拡大）
6. アジア地域内及び世界の大学との協力体制を構築する。
7. 高等教育発展戦略を強化する。

上記の目標及び指針を達成するための七大アプローチは、以下の通り明記されている。

表1 七大アプローチの詳細

アプローチ法	内容
アプローチ1 カリキュラム改正	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会に役立つ実務能力や効率性の強化 ● 教育改革に沿った標準教科の設定および、自然科学・科学技術分野を中心とした最新知識を取り入れたカリキュラムの策定 ● 科学技術分野の大学（ラオス国立大学、ソパノヴォン大学、チャンパサック大学）の強化。特にラオス国立大学の重点化 ● 既存の教育カリキュラムにおける遠隔教育プログラムの導入。大学教育遠隔カリキュラムの完成（2011年） ● 質の高い図書館を設置、e-library（電子図書館）の構築 ● 教材・設備・実験装置等の教育・研究環境の充実
アプローチ2 教員育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 教員の十分な人数配置 ● 教育方法論の向上 ● 知識、倫理基準、教育方針向上の教員研修プログラムの改善、評価
アプローチ3 大学運営改革	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央集権化から地方分権化への移行 ● 各地域の教育機関の地域社会との連携強化 ● 教育問題に対し迅速に対処できるシステム構築
アプローチ4 大学間ネットワークの強化	<ul style="list-style-type: none"> ● 現教育構造全体の見直し、及び選択科目の導入促進 ● 基礎教育、技術・職業教育、高等教育、大学及び大学院教育の制度の連携強化 ● 学校間ネットワークを構築し、地方分権化を促進 ● 地域に根付く技術人材の育成、科学的研究の奨励、研究成果の活用 ● カレッジ（colleges）及び技術学校の発展を優先化 ● 地方の教育開発の優先化
アプローチ5 教育予算増加	<ul style="list-style-type: none"> ● 公的な資金援助を教育開発に優先的に活用 ● 教育財政の効率化 ● 校舎、教室、研究センターの質向上をめざした教材と設備の投入 ● 大学教育へのアクセスの拡大

アプローチ6 オーナーシップの奨励	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学教育開発に対する国民参画の奨励化 ● 生涯教育の機会を拡大
アプローチ7 国際協力の促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外の大学や国際機関を通じた教育分野における協力と援助の活用

(出典：National Education System Reform Strategy (NESRS) 2006-2015)

全国教育制度システム改革戦略 2006-2015 は「段階1 2006-2010」及び「段階2 2010-2015」の二つの段階に分けて実施される予定である。高等教育及び大学教育におけるカリキュラム改革は 2011-2012 年度にも継続される。現在、ラオスは 11 年制の初等・中等教育制度を導入しており、その後大学入学となる。近隣諸国の 12 年制教育制度との整合性をとるため、一年間の基礎教育が必要となり、学士課程は 5 年間となる⁴。

2. ラオス人民民主共和国における高等教育の質の保証制度

(1) 教育の質保証センター(QAC)

ラオス政府は 2020 年までに後発開発途上国の地位を脱するという目標を掲げ、教育の質の向上を通じ地域及び国際的水準の教育制度を目指し、教育制度改革を実施している。具体的には、高等教育機関の運営を向上させ、就学年数を長期化し⁵、更には高等教育における単位制度の導入、安定化を目指すものである。大臣法令により教育の質保証センター (Education Quality Assurance Center : QAC) が教育省内に設置され、各教育レベルの質に関する調査分析に基づく戦略策定を実施している。

基礎教育・高等教育の質問題、及び制度化されていない教育の質の評価実施に対応するため、QAC は 2008 年に教育省の部局と同等の位置づけとして設立された。QAC は教育分野の全レベルにおいて教育の質を評価、認証センターである。同センターは教育の質を評価する基準、指標、及び規範を制定すると同時に、国公立の教育機関の内部・外部的評価を実施する専門家の育成を目指す。QAC は教育の質保証戦略計画 (2008-2015) を策定し、本計画に基づき教育の質の向上を目指す。評価プロセスは義務教育機関に対しては、3 年に一度、職業学校および高等教育機関に対しては、5 年に一度実施される。QAC は現在 10 人体制で運営されており、近隣国及び日本での留学経験者 3 名を含む。

QAC 策定の教育の質保障戦略計画には、以下の 5 大重点施策が明記されている。第一点目は教育の全レベルにおいて質の保証を強化するための基準・指標・規範及びそのプロセスを制定し、質の保証制度を確立する事。第二点目は教育の質保証の評価を効果的に実施する事。第三点目は試験等を充実させることで卒業・入学試験の制度を改善する事。第四点目は国内、地域、そして国際的なレベルでの競争を促進する事。第五点目は地方における教育の質を向上する事である。

(2) 高等教育における質の保証及び認定の基準・指標

高等教育の質の保証に関しては、10 の基準 (目標及びミッションの設定、運営体制の確立、カリキュラム、教育プロセス、教職員育成、学生対応、研究活動促進、学術リソース及び設備、予算計画及び運営の確立、そして質の保証に関する制度とメカニズム) を設け、その各基準の指標を設定している。これらの基準は内部評価に使われるが、更にそれぞれ

の教育機関で質の向上のため、外部評価のため（認可のため）の情報提供に活用される。10の基準・指標は以下の通り⁶。

表2 10の基準と指標

番号	基準	指標
1	目標および、ミッションの設定	<ul style="list-style-type: none"> 教育省の方針に沿い、明確な目標が設定されている 社会のニーズを分析し、目標・ミッションに反映させている
2	運営体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> 高等教育機関運営体制が構造的に明確化されている 運営する人材の育成が継続的に行われている 学術的な人材。
3	カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> 目標と整合性のあるカリキュラム内容となっている カリキュラムの内容が、最新の内容を反映しており、教育改革戦略計画と合致している カリキュラム内容が常に再評価され、改善されている
4	教育・勉学	<ul style="list-style-type: none"> 学習者中心(student-centered)の教育法を実施、促進している 透明性が高く客観的なツールを用いて成績評価を実施している
5	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 専門性、経営面を含む多方面に渡る教職員研修が計画、実施されている 妥当な資格、経験を有する教職員が十分に確保されている
6	学生対応	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・シラバスに基づく評価が実施される 卒業後のキャリア支援が実施されている 成績評価基準が明確で、成績記録の総合的システムが存在する 卒業後のトレーススタディ制度が存在する
7	研究	<ul style="list-style-type: none"> 共同研究、発表、出版などの研究活動の奨励が明確化されている 研究成果の基づく教員評価を計画・実施する
8	学術・研究設備	<ul style="list-style-type: none"> 教育・研究のためのリソース・設備（図書館、教室、教職員研究室、コンピュータ、インターネット、スポーツ場、教材など）が十分にある
9	予算計画・運営の確立	<ul style="list-style-type: none"> 透明性が高く、効果的な教育財政運営体制がある 研究活動や学術訓練などを奨励するための一定の予算を確保する
10	質の保証制度の普及	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価実施のための、独立した評価部署を設置している 教育の質保証に関する研修、オリエンテーションを教職員、学生に対して実施している

(出典：Strategy for Education Standard and Quality Assurance)

3. ラオス人民民主共和国の単位制度・成績評価制度

ラオスの高等教育は従来フランスの教育制度を導入し、試験制度に基づくものであった。学生は年度ごとの最終試験に合格することで、次学年に進学できる制度であった。1995年にラオス国立大学（NUOL）が設立されて以来、試験制度は単位制度に移行した。これはアジア地域の他国の教育制度との互換性を意識したもので近年の高等教育改革の一環として実施された。

単位制度導入は3つの大臣法令から成り、2001年7月17日に教育大臣により承認された：1）高等職業課程の国家水準に関する法令 No. 0922/Ed.Vo./2001；2）学士課程の国家水準に関する法令 No. 0923/Ed.Vo./2001；3）修士課程の国家水準に関する法令 No. 0924/Ed.Vo./2001。

(1) 高等職業課程(Higher Diploma)の国家水準に関する法令 No. 0922/Ed.Vo./2001

- ① 課程年数は3年
- ② 2学期で各学期は16週（週35時間）
- ③ 1単位は基本的に以下のいずれかの活動に匹敵する学習からなる⁷
 - ① 週に1時間の授業（16時間）
 - ② 週に2－3時間のチュートリアル（32－48時間）
 - ③ 週に3－6時間の実験、実習又はインターンシップを含む課外活動（48－96時間）
- ④ 卒業要件単位数は90から120
- ⑤ プログラム構造は以下の通り
 - ① 一般教育科目：18－30単位
 - ② 基礎技術科目：30－36単位
 - ③ 専門科目：40－50単位
 - ④ 特別科目：2－4単位
- ⑥ 入学資格者は高等学校を卒業した者あるいはそれと同等の中等教育を受けた者
- ⑦ 成績評価制度はA-Fの8段階評価

表3 8段階の成績評価

評価	意味	点数
A	Excellent	4.0
B+	Very Good	3.5
B	Good	3.0
C+	Fairly Good	2.5
C	Fair	2.0
D+	Poor	1.5
D	Very Poor	1.0
F	Fail	0

(出典：The minister's decree concerning the national standard of the bachelor degree programs No. 0923/Ed.Vo./2001)

(2) 学士課程の国家水準に関する法令 No. 0923/Ed.Vo./2001

- ① 課程年数は一般的に5年（基礎学習用の準備期間1年間を含む）
- ② 2学期で各学期は16週（週35時間）
- ③ 1単位は（1－ウ）と同様の3種の学習活動から成る
- ④ 卒業要件単位数は150から190単位
- ⑤ プログラム構造は以下の通り
 - ① 一般教育科目：60－70単位
 - ② 基礎技術科目：50－65単位
 - ③ 専門科目：37－50単位
 - ④ 特別科目：3－5単位
- ⑥ 入学資格者は高等学校を卒業した者あるいはそれと同等の中等教育を受けた者である
- ⑦ 成績評価制度は（1－⑦）と同様

(3) 修士課程の国家水準に関する法令 No. 0924/Ed.Vo./2001

- ① 課程年数は1.5年から2年
- ② 2学期で各学期は16週（週35時間）
- ③ 1単位は以下の4種の学習から成る。
 - ① 週に1時間の授業（16時間）
 - ② 週に2－3時間のチュートリアル（32－48時間）
 - ③ 週に3－6時間の実験、実習、又はインターンシップを含む課外活動（48－96時間）
 - ④ 週に3－4時間の個人研究あるいは論文執筆（48－64時間）
- ④ 卒業要件単位数は36から48単位（1年半のコース）あるいは40から54単位（2年間のコース）
- ⑤ プログラムの構成は以下の2つのプランから選択することが出来る
プランA(1年半コース)：論文執筆あるいは研究作業（以下の副選択を参考に）
 1. 副選択1：36あるいは48単位に相当する論文執筆を行う
 2. 副選択2：6－12単位に相当する論文執筆に加え、必須科目20－32単位相当と専門選択科目10－20単位によって構成されるコースワークを履修するプランB(2年コース)：必須科目20－32単位相当と特別科目12－28単位、更に3－6単位の個人研究によって構成されるコースワークを履修する
- ⑥ 入学資格者は学士号既取得者あるいはそれと同等の者である
- ⑦ 成績評価制度は（1－⑦）と同様

現在のところ、単位互換が可能なのは国内の以下の4大学間である（ラオス国立大学、チャンパサック大学、スパンヴォン大学、サヴァンナケット大学）。今後、近年の教育改革実施計画実施に準じて、その他教育省に認可された数校の私立カレッジとの単位互換が可能になる予定である。

また、ラオス国立大学においても教育の質の保証制度の設立が実施されている。その一貫として、教職員向けの研修セミナーが数多くて実施されている。現在、質の保証制度は前述の通り、教育大臣による教育課程の国家水準に関する法令(No. 0922/Ed.Vo./2001、No. 0923/Ed.Vo./2001、No. 0924/Ed.Vo./2001) で定められているが、ラオス国立大学規約にも同様に明記されている⁸。教育の質を高め、確保するための事例として、経済学部での新教育プログラムの制定法を以下に示す。

表 4 経済学部での新教育プログラムの制定法

ラオス国立大学経済学部の事例

新教育プログラムの制定は次の6段階を踏む。(1)トレーサースタディーズに基づき、新しいプログラムの内容設定を行う。(2)経済学部の教授会が承認する。(3)学部の教員により新カリキュラムが開発される。(4)再度、教授会への提出。(5)ラオス国立大学の Academic Committee に提出。(6)大学の理事会に提出し、承認されたものが高等教育部局を通して教育大臣により最終承認される。

原則として講義シラバスは毎年適宜修正され、既存のカリキュラムは4-5年に一度、見直し・改定される。そのため、4-5年に一度、経済学部では卒業生のトレーサースタディーズ及び企業へのアンケートを通して教育の質及び労働市場のニーズに関する必要情報の収集を行っている。更に、新任教員に対して教育方法論を含めた研修を実施している。

(出典：Case Study on Faculty of Economics and Business Management (FEBM) of the National University of Laos (NUOL))

4. ラオス国立大学のケーススタディ

(1) ラオス国立大学の概要

ラオス国立大学 (National University of Laos、NUOL) は 1996 年にラオス人民共和国における最初の総合大学として高等教育の改革と統合を通じ、教育の質を高めて国際的な教育の指標に達することを目的に設立された。1975 年から 1996 年の間、ビエンチャン教育学校、国立工科学校、保健医学大学という 3 つの高等教育機関が存在した。これらの教育機関は高等学校を卒業した者に 4 年から 6 年の専門教育を実施していたが、総合大学を求める声が高まる中、ラオス国立大学が創立された。

ラオス国立大学は、1) 農学部、2) 建築学部、3) 経済・ビジネス学部、4) 教育学部、5) 工学部、6) 森林学部、7) 法律・政治学部、8) 文学部、9) 理学部、10) 社会科学部、11) 環境学部、の 11 学部 43 学科から成る。更に、9 つの研究・教育センターを有し、アジア諸国を中心に近年活発な研究教育活動が展開されており、現在全学生 38,000 名が学んでいる⁹。全学レベルの国際オフィスが存在するが、正式な学生交換プログラムは存在しない。また、英語・ベトナム語・タイ語によって実施されている講義はあるが、国際カリキュラム開発は今後の課題である。

ラオス国立大学への入学には、地域別選抜と入学試験選抜の二種類の方法が用いられている。地域選抜は、教育省の方針に基づいて、都市と地方の教育の不平等性を解消するために全州において行われており、地域別の入学定員が割り当てられている¹⁰。一方、入学試験による選抜は、全ての高等学校卒業者に受験資格があり、入学試験の成績によって入学の可否が決定される。

学士課程は基礎教育を1年間受講した後に、それぞれの学部において四年間専門科目を履修する。一方、Higher Diploma 課程は3~4年間のプログラムであり、工学部、建築学部、森林学部、農学部の4つの学部により構成されている。Higher Diploma 課程の学生で学士課程への進学を希望するものは大学の評議会によって承認されたブリッジコースに登録、履修する必要がある。修士号は経済・ビジネス学部、理学部、文学部、森林学部、教育学部、工学部において取得することができる。1年度はそれぞれ 16 週にわたる2学期制で構成されている。(前期:9月から1月、後期:2月から6月、最終試験:7月、卒業式:8月)

(2) ラオス国立大学経済・ビジネス経営学部 (FEBM) の概要

ラオス国立大学は、アジア開発銀行の支援 (第二次高等教育合理化プロジェクト) を活用し、総理大臣法令 No.50/PM/95 のもと、FEBM を含めた 9 つの学部を設立した。更に今日まで FEBM は政府、国際機関や海外の大学を含めた 7 つのプロジェクトからの援助を受けている¹¹。現在のところ、FEBM は経済学科とビジネス経営学科において 8 プログラム¹²、および大学院において 3 専攻¹³を有している。更には 特別プログラムおよびブリッジコースとして、関連分野で職務経験を有する社会人を対称に特別プログラムを提供する。2007 年度にはラオス・日本センターとの協力のもと MBA プログラムが開始され、2008 年度からは経済学修士課程を独自に立ち上げることに成功した。

1996 年に 7 名の教員で発足した本プログラムは、現在 76 名 (2008 年現在) の教員から成り、そのほぼ全員が修士号取得であり、そのうち 3 名は博士号取得者である。2008 年現在、本学部は 4,200 名の学生を有し、うち 1,200 名は普通課程を、3,000 名は特別コース (夜学、週末のパートタイム含む) を履修している。また修士課程には 160 名の学生

が通う。留学生はベトナムからの 20 名に留まっており、国際交流課は学部内に設置されているが、以前ハノイ国立経済大学と修士プログラムで連携を行っていたが、現在のところ、正式な国際学生交流プログラムは存在しない。また国際カリキュラムも実施していない。

学部生はドンドック (Dong Dok) キャンパスにおいて 5 年間もしくは 10 学期間経済学またはビジネス経営学を学ぶ。1、2 年目には、経済学科及びビジネス経営学科は同じ教養科目を学ぶ。その内容はラオス政治学、ラオス語及びラオス文学、環境基礎学、数学と統計、コンピュータ基礎、外国語、経営学、一般会計学、マクロ経済学、ミクロ経済学である。そして 3 年目以降は経済学コースとビジネス経営学コースに分離し以下の内容を学ぶ。

表 5 経済学科とビジネス経営学科の履修科目

学年	経済学科	ビジネス経営学科
3 年目	経済学における基礎知識 (アジア経済学、開発経済学、農業経済学、工業政策、比較経済学、国際財政学、労働経済学、労働政策、プロジェクト計画、計量経済学)	組織行動、管理会計、市場、コーポレートファイナンス、人材管理、ビジネス法、情報経営、運用管理、戦略管理、小規模ビジネス管理、農業ビジネス、観光ビジネス等
4 年目	応用経済学、計画開発経済学、商学、公共経済学及び選択科目の履修	ビジネス経営、会計、財務及び銀行、市場及び選択科目の履修
5 年目	研究方法論および、学位論文の執筆	研究方法論および、学位論文の執筆

(出典 : Case Study on Faculty of Economics and Business Management (FEBM) of the National University of Laos (NUOL))

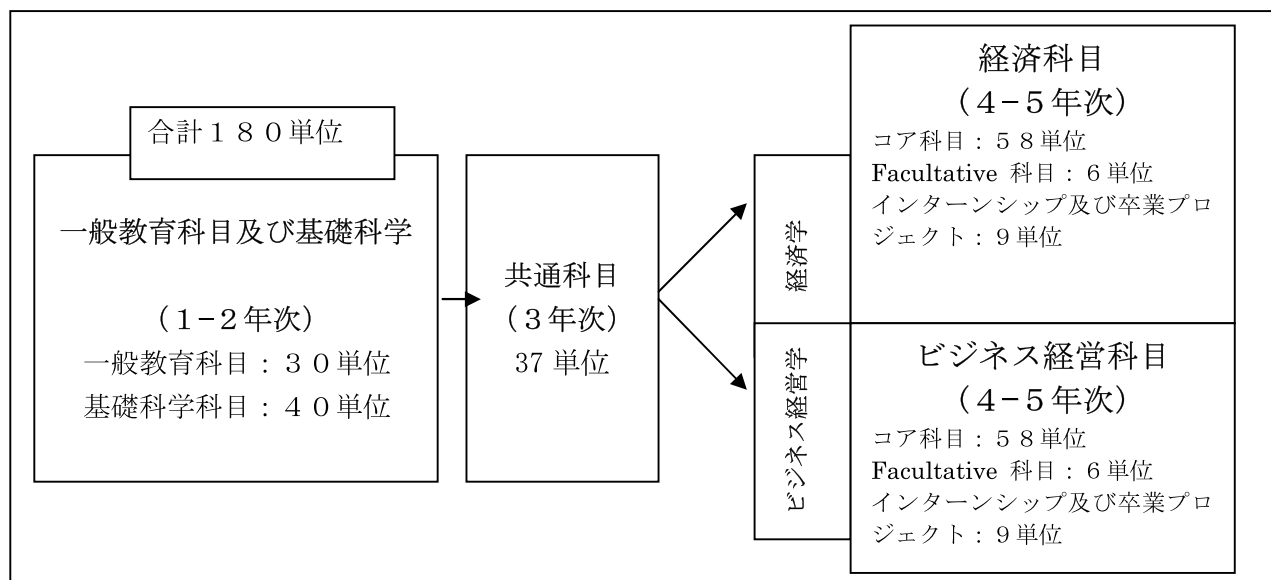


図 1 単位履修制度の概要

(出典 : Case Study on Faculty of Economics and Business Management (FEBM) of the National University of Laos (NUOL))

(3) ラオス国立大学経済・ビジネス経営学部（FEBM）における単位制度・成績評価制度の事例

①学術に関する一般的情報

- 一年は2学期に分かれており、それぞれ5ヶ月の学習期間（16－17週の教育・学習期間＋2週の試験期間）と一ヶ月の休暇期間から成る。1年生は10月1日に入学、2，3，4，5年生は9月中旬に新学期が開始する。
- これまでの学部教育は予備教育の一年間を含め5年間であったが、2010年には中等教育が6年制から7年制になるため、学部教育が4年となる。新教育制度では、小学校教育5年、中学教育3年、高校教育4年の5＋3＋4となる予定。
- 修士課程は2年あるいは1年半（前述の修士課程の国家水準に関する大臣法令 No.0923/Ed.Vo./2003 の通り）。
- 卒業要件単位数は以下の通り、前述の大臣法令に順ずる（大臣法令 No.0923/Ed.Vo./2002 及び大臣法令 No.0923/Ed.Vo./2003】）。

学部プログラム

- Higher Diploma : 90-120 単位
- 学士課程 : 150-190 単位 (5年); 210-230 単位 (6年); 230-265 単位 (7年)

大学院プログラム

- 修士課程 : 36-40 単位 (Plan-A1); 51-64 単位 (Plan-A2); 50-66 単位 (Plan-B)
- 学部では、卒業要件単位のうち、必須科目が95%以上を占め、選択科目は平均的に数科目に留まっている。大学院修士課程では、必須科目は50%にとどまり、選択するコースにより、論文・個人研究、及び選択科目の割合は異なる。

学部プログラム

- Higher Diploma : 必須科目 96.66%; 選択科目 3.34%
- 学士課程 : 必須科目 97.36%; 選択科目 2.64%

大学院プログラム

- 修士課程 : 必須科目 50%; 選択科目 31.25%; 論文あるいは個人研究 18.75%
- 学士課程 (5年プログラム) は分野による卒業要件単位数の差異はそれ程大きくない (最低 150 単位、最高 186 単位)。

表 6 学部による卒業要件単位数の違い

卒業要件単位数が少ない分野 (5年の学士課程 : 150－160 単位)	卒業要件単位が多い学部 (5年の学士課程 : 175－190 単位)
<ul style="list-style-type: none"> • 数学、物理、化学、生物、情報工学 • 建築管理 • 英語、中国語 • ツーリズム、ホテルマネジメント、社会開発 	<ul style="list-style-type: none"> • 電子工学、鉱山工学、電力工学、環境工学 • 環境科学 • ラオス語・文化、コミュニケーション学、ロシア語

<ul style="list-style-type: none"> ● 経済学、国際経済学、開発経済学、ビジネス経営、会計学、マーケティング、貿易 ● 国際関係 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地理、歴史 ● 行政学・政治科学
---	---

(出典：Case Study on Faculty of Economics and Business Management (FEBM) of the National University of Laos (NUOL))

- 一科目の平均単位は 2 単位～3 単位だが、学部によっては例外もある（工学部、経済学部のカリキュラム参照）。基礎科目である「国家保障」は一単位で初学年に全員履修する。最も多い単位数は「論文」で 3 科目分にあたる 10 単位。
- 各科目の単位数は、基本的に教員と接する講義、T A・グループワークなどからなるチュートリアル、及び課外活動の時間(注：この部分が自主学習に当たる可能性あり。要チェック)。これは学部・大学院とも共通。
- 科目毎の単位数認定は、大臣法令に順ずる（No.0923/Ed.Vo./2002 & No.0923/Ed.Vo./2003）。

② 単位互換制度

- NUOL の学部間の単位互換は可能である。通常、学生が専門を変更するときに限り単位互換を実施してきた。その際には、担当教員と大学の学務部の許可が必要となる。
- NUOL はラオス国内の 4 大学と連携しており、大学の編入試験に合格した学生は自動的に単位が移行される（NUOL から他大学へ編入する場合はほぼ自動的）
- 経済学および経営学の学部プログラムに関しては、一般教育科目、および共通科目を単位編入することが出来る。
- その他の国内の単位認定は、私立大学間、及び国立ー私立大学間で実施されているが、私立大学は、教育省に認可され同様の単位システムを仕様している大学のみ単位移行が可能。
- Cross-listing の制度は存在しない。
- 正式は国際カリキュラムは実施されていないため、現在は、海外の大学からの単位認定・単位互換の規定は存在しない。また、ダブルディグリー、ジョイントディグリープログラムも実施されていない。

③ 成績評価規則

- 相対評価、絶対評価のどちらも許可されている。試験結果が通常通りの場合絶対評価を選ぶ教員が多いが、全体の成績結果が良くない場合に相対評価を用いるケースもある。
- 成績評価制度は大臣法令に順じ、学部、大学院とも共通の評価（A－F）を使用。No.0923/Ed.Vov./2002 及び No.0923/Ed.Vo./2003。
- オリジナルの成績情報は、各教員が電子データで保存しており、オリジナルスコアは 0－100%のスケールで表記されており、A－F 評価への変換は以下の通り¹⁴。

表 7 評価の変換方法

%	成績	G P A
80 - 100 = A, GPA 4	A	4
75-79 = B+, GPA 3.5	B+	3.5
70-74 = B, GPA 3	B	3
65-69	C+	2.5
60-64	C	2
55-59	D+	1.5
50-54	D	1
49 以下	F	0

(出典：Case Study on Faculty of Economics and Business Management (FEBM) of the National University of Laos (NUOL))

④ 成績評価に関する記載について

- 成績評価はシラバスに表記された評価基準によって実施される。
- 成績証明書は、最終試験一ヶ月以降に入手可能である。
- 海外との交換留学制度はないため、評価の認可は適用されない。
- コースカタログ、シラバス、成績評価に関する表は学部で作成され、学生に周知される (Appendix 参照)。
- 成績評価、GPA 計算については、全学レベルの規則に順ずる (Appendix 参照)。
- コースカタログには単位情報が記載されているが、授業スケジュール表には明記されていない。
- 大学ウェブサイトには学部の基本的な情報は掲載されているが、単位情報は載っていない。将来的にはウェブサイトに掲載する予定である。
- 防衛スポーツ科目など、単位のない科目もあり、この科目は必須科目として学生は履修する (pass / no pass の表記)。

5. まとめ

ラオスには、現在 4 大国立大学、5 校の教員養成大学と 78 の私立高等教育機関が存在し、大学入学者は大学修学年齢人口の 5.3%にあたる。1995 年に単位制度が導入され、2008 年には教育省内に教育の質保証センターが設置され、国家教育制度改革戦略(2006-2015)では、高等教育制度をアジア地域および国際水準化することを目指している。単位互換、成績評価制度などは、具体的に大臣法令で定められており、教育課程の国家水準に関する法令 (No. 0922/Ed.Vo./2001、No. 0923/Ed.Vo./2001、No. 0924/Ed.Vo./2001) は、大学運営の指標とされている。大学間での単位互換は国内では実施されているが、海外機関との単位互換はベトナムとの国家レベル協定が昨年交わされ、具体的な大学間での実践は今後の取り組みとなる。国立大学では海外援助の一環としてタイ、ベトナム等との共同プログラムが試行され、成績評価制度、シラバス等の情報公開も近年積極的に取り組む姿勢が見られるが、大学間の差異が大きいのが現状である。

参考文献：

ADB. Technical Assistance Report. Lao People's Democratic Republic: Preparing the Strengthening Higher Education Project, Manila, 2008

Ministry of Education of Lao PDR, "The minister's decree concerning the national standard of the Higher Diploma programs No. 0922/Ed.Vo./2001", Vientiane, 2001

Ministry of Education of Lao PDR, "The minister's decree concerning the national standard of the bachelor degree programs No. 0923/Ed.Vo./2001", Vientiane, 2001

Ministry of Education of Lao PDR, "The minister decree concerning the national standard of the master degree programs No. 0924/Ed.Vo./2001", Vientiane, 2001

Ministry of Education of Lao PDR. National Education System Reform Strategy (NESRS) 2006-2015. Vientiane, 2006

Ministry of Education of Lao PDR, "Strategy for Education Standard and Quality Assurance", Quality Assurance Center, Vientiane, 2008

Ministry of Education, Non-official translated document for QA Strategy 2010-2015, Quality Assurance Center, 2009

National University of Laos, Information on Academic Affairs, 2001

National University of Laos. University Regulations of National University of Laos, 2nd Edition, Vientiane, 2007

National University of Laos, Brochure on Faculty of Engineering, 2009

National University of Laos, Brochure on Faculty of Economics and Business Management, 2009

National University of Laos, Report on Self-Assessment and Quality Assurance System, 2009

Norasend.V., Chanhthavong, "The Quality Assessment of Higher Education in Lao PDR", presented at Annual Roundtable Meeting of the ASEAN Quality Assessment Network, Bangkok, 2009

Nouansabanh, K. "Case Study on Faculty of Economics and Business Management (FEBM) of the National University of Laos (NUOL)", Vientiane, 2010

Southisombath, K., "Report on recent activities of Faculty of Engineering, National University of Laos", Vientiane, 2010

注

- ¹ 女子学生の比率は 30% 台 (NUOL : 37%、CU : 31%、SU : 39%) となっており、少数民族出身の学生は 35% である。
- ² ADB. Technical Assistance Report. Lao People's Democratic Republic: Preparing the Strengthening Higher Education Project, Manila, 2008
- ³ Ministry of Education of Lao PDR. National Education System Reform Strategy (NESRS) 2006-2015. Vientiane, 2006
- ⁴ Nouansabanh, K. "Case Study on Faculty of Economics and Business Management (FEBM) of the National University of Laos (NUOL)", Vientiane, 2010
- ⁵ Norasend.V., Chanhthavong, "The Quality Assessment of Higher Education in Lao PDR", presented at Annual Roundtable Meeting of the ASEAN Quality Assessment Network, Bangkok, 2009
- ⁶ Ministry of Education, Lao PDR, "Strategy for Education Standard and Quality Assurance", Quality Assurance Center, Vientiane, 2008
- ⁷ 一科目も単位数は、①②③の学習活動の組み合わせにより決定される (単一学習活動の場合もあり)。
- ⁸ National University of Laos. University Regulations of National University of Laos, 2nd Edition, Vientiane, 2007
- ⁹ 学生数の内訳は Higher Diploma 課程 4,062 名、学士課程 30,920 名、修士課程 466 名となり、うち 549 名の留学生は学部生のみ (2008) である。
- ¹⁰ この選抜では高等学校の成績が基準となる。
- ¹¹ 日本政府による校舎設備、および 5 年間の技術協力、ベトナム、タイの複数の大学による協働プログラム、人材交流のためのドイツ政府奨学金、SEAMO-UNESCO の教員研修、ベルギー政府のによる研究フェロシップ、などが挙げられる。
- ¹² 学士課程は、1) 応用経済学科、2) 計画開発経済学科、3) 商学科、4) 公共経済学科、5) ビジネス行政学科、6) ビジネス行政学科 (会計分野)、7) ビジネス行政学科 (市場分野)、8) ビジネス行政学科 (財務・銀行分野) の 8 学科から成る。
- ¹³ 修士課程は 1) 金融・公共経済学専攻、2) 計画開発経済学専攻、3) 国際経済学専攻の 3 専攻から成る。
- ¹⁴ National University of Laos. Decree of graduating paper evaluation No. 217/nuol/2007, Vientiane, 2007.